

第4回野口英世アフリカ賞 ギニア虫症撲滅プログラム及び南アフリカ人医師 2 名が授賞

日本政府は、第 4 回野口英世アフリカ賞を、医療サービス部門はギニア虫撲滅プログラム(カーターセンター及びアフリカのすべての関係者)、医療研究部門はサリム・S・アブドゥル・カリム博士とカライシャ・アブドゥル・カリム博士(南アフリカ共和国)に授与することを決定しました。

医療活動分野: ギニア虫症撲滅プログラム

史上2番目のヒト疾患の撲滅を目的とした、カーターセンター主導の下でのアフリカ関係者とのパートナーシップによる国際的なキャンペーン。

医学研究分野: サリム・S・アブドゥル・カリム博士(南アフリカ共和国)

南アフリカ・エイズ研究プログラム・センター(CAPRISA 次長)、米コロンビア大学メールマン公衆衛生大学院 CAPRISA 教授(国際保健)及びクワズル・ナタール大学副学長代理(研究)。

カライシャ・アブドゥル・カリム博士(南アフリカ共和国)

南アフリカ・エイズ研究プログラム・センター(CAPRISA)次長、米コロンビア大学メールマン公衆衛生大学院教授(疫学)及びクワズル・ナタール大学副学長代理(アフリカ保健)。

野口英世アフリカ賞は、1928 年にガーナで黄熱病の予防・治療法の研究中に死亡した著名な細菌学者野口英世博士にちなみ、アフリカにおける医学研究および感染症などの医療活動の分野で優れた業績をあげ、アフリカの人々の健康増進と福祉向上に貢献した者に授与されます。

今回、医療奉仕活動の分野で受賞した「ギニア虫症撲滅プログラム」は、1980 年からアフリカで、また 1991 年からエチオピアで同病の撲滅に向けた活動を続けています。カーター・センターが主導し、アフリカの保健省、コミュニティ、NGO、WHO などの主要パートナーとの連携により実施され、ほぼ撲滅に近い成果を上げています。エチオピアでは、エチオピア公衆衛生研究所(EPHI)ガンベラ地域保健局、WHO、カーターセンターがガンベラでの取り組みを主導しています。

ギニア虫撲滅プログラムの詳細については、以下の添付ファイルをご覧ください。

また、野口英世アフリカ賞の詳細については内閣府野口英世アフリカ賞ウェブサイトをご覧ください。(<https://www.cao.go.jp/noguchisho/index.html>)

(別添)

医療活動分野

ギニア虫症撲滅プログラム

(Guinea Worm Eradication Program)

史上2番目のヒト疾患の撲滅を目的とした、カーターセンター主導の下でのアフリカ関係者とのパートナーシップによる国際的なキャンペーン。



南スーダンでの戦争避難や遊牧民生活様式のため、男女や子供に配給されたパイプ・フィルタはギニア虫症感染対策上の重要な道具となっている。南スーダン・テレケカ郡・クセダムにて。
(写真提供:カーターセンター / L Gubb)

第4回野口英世アフリカ賞(医療活動分野)は、カーターセンターの主導の下、アフリカの保健省、地域コミュニティ、非政府組織(NGO)、及び世界保健機関(WHO)や米国疾病予防管理センター(CDC)等の主要パートナーとの協力により、ギニア虫症をほぼ撲滅させたその功績により、ギニア虫症撲滅プログラムに授与される。

ギニア虫症撲滅プログラムは、第4回野口英世アフリカ賞(医療活動分野)を受賞するに相応しい取組である。カーターセンターは、1986年に同プログラムの主導を開始し、今日では協力パートナーと共に、人々を衰弱させるこの病気の惨劇を根絶するために活動している。この寄生虫感染症は汚染された飲料水の摂取により拡大するため、地域コミュニティでの啓蒙教育や濾過水の使用、感染した際の適切な治療により対処することが可能である。ギニア虫症を治療又は予防するためのワクチンや薬は存在せず、コミュニティ・レベルでの行動変容と信頼構築しかない。しかし、撲滅を達成するためには、遠隔地に赴き、紛争地域でも取り組み、アフリカ大陸全域で現地の医療従事者や衛生労働者といった膨大な社会基盤を強化させることが引き続き必要である。1980年代には、ギニア虫症の撲滅を目標に掲げることは大胆な発想であり、簡単なことではなかった。実現するためには、継続的な資金拠出と数十年にわたるコミットメントが求められることになるからだ。ギニア虫症の症例件数は、2021年までに、年間推定350万件からわずか15件へと減少し、8千万人以上の人々の発症を回避することができた。しかし、これらの残された地域や感染リスクのある地域での安全な水へのアクセスは、特に対象地域で動物の感染が確認されていることもあり、引き続き最優先事項とされる。野口英世アフリカ賞委員会は、カーターセンターに対して、そして、コミュニティ・レベル、地域レベル、国家レベル、国際レベルで同プログラムに携わった全ての関係者に対して、その素晴らしい功績を讃えとともに、史上2番目のヒト疾患撲滅をほぼ達成させたことに祝意を表する。我々は共に、古くから存在してきたこの病気をもはや過去のものへと確実に追いやるため、引き続き粘り強く警戒しなければならない。

<業績概要>

カーターセンター(The Carter Center)を中心とする世界的な連合体である「ギニア虫症撲滅プログラム(Guinea Worm Eradication Program)」は、アフリカ及びアジアの国々の保健省や地域コミュニティと密接に協力しながら、ギニア虫症の症例件数を、1986年の約350万件

から、2021 年にアフリカ全体でわずか 15 件へと、99.99%以上も削減させた。

ある地域におけるギニア虫症の存在は、安全な飲料水の不足を含め、貧困度合いの厳しさを物語っていることが多い。ギニア虫症、又はメジナ虫症は、水系の寄生虫感染症であり、激痛を引き起こすが、完全に予防可能な疾患である。ギニア虫が出現すると、人々やその家族は、数週間や数カ月もの間、その能力を奪われてしまう。ギニア虫症は、ギニア虫 (*Dracunculus medinensis*) の幼虫を体内に取り込んだミジンコで汚染された飲み水が人の体内に入ることによって感染する。水を摂取してから約1年後、成熟したメスのギニア虫が皮膚に激痛を伴う病変を作り、皮膚からゆっくりと体外に出てゆく。感染者が焼けつくような痛みから解放されようと病変部を水に浸すと、ギニア虫がその幼虫を水に放出し、疾患サイクルが最初から再び始まる。

1986 年には、アフリカ 19 か国とアジア 2 か国で年間およそ 350 万人がギニア虫症に感染し、約 1 億 2000 万人が感染リスクに曝されていた。古くから存在するこの病気は、感染阻止のための行動変容を人々に教育する地域に根差した介入により撲滅されつつある。国家プログラムは、各国の保健省により、国や地方の政治的指導者、非政府組織、伝統的指導者、地域に根差した村のボランティアたちと連携しながら、各国で実施されている。フィルターを提供し、飲み水は必ず濾過するように人々に指導している。ボランティアを訓練し、ボランティアが地域コミュニティに予防法を指導し、ギニア虫の兆候を発見し、無料で治療を提供できるようにしている。疑わしい症例がすぐに報告され、封じ込めることができるように報奨金も支払われている。

ギニア虫症撲滅プログラムによるこのような継続的な努力の結果、ギニア虫症は現在では、アフリカの一握りの国々の最も複雑かつ遠隔な地に限られるようになっている。カーターセンターによると、2021 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの人の症例数はわずか 15 例であった。このような素晴らしい成果により、ギニア虫症が、寄生虫感染症では歴史上初めて、またヒト疾患では天然痘に次いで 2 番目に根絶される可能性が出てきている。



コミュニティ・ベースの村のボランティアは、ギニア虫症撲滅キャンペーンの最前線のヒーローであり、世界中で 99.99%の撲滅という進展は彼らの献身とコミットメントのおかげである。南スーダン共和国、テレケカ郡、モルジョール村にて。

(写真提供:カーターセンター/ L Gubb)



ダンガボル村(チャド共和国)で行われた報奨金授与式でギニア虫症の検出方法について人々に教えるカーターセンターのテクニカルアドバイザー(Laurès Dossou) (手前)とボランティアのスーパーバイザー(Mende Kelmane Alphonso)。ギニア虫症感染の疑いを報告し、適切な措置を講じた者は、最大100ドルの報奨金を受け取ることができる。

(写真提供:カーターセンター/ J. Hahn)



報奨金イニシアチブについてアコルニ村(南スーダン共和国)の村人に語るギニア虫症撲滅プログラムのコミュニティ・ヘルス・ワーカーたち(Regina Natube、Morris Abure、Lokore Arkangelo の3名)。

(写真提供 : カーターセンター / C. Marin)

https://www.cartercenter.org/news/features/h/guinea_worm/meet-regina-lotubai-lomare-lochilangole.html

受賞者の連絡先:

担当者: Ms. Meagan Clem Martz (Carter Center Point of Contact)
Office of Development, Principal Gifts International
The Carter Center, Atlanta, USA

E-mail : Meagan.Martz@cartercenter.org

担当者: Ms. Emily Staub (Carter Center Media Point of Contact)
Office of Communications
The Carter Center, Atlanta, USA

E-mail : Emily.Staub@CarterCenter.org

ギニア虫症撲滅プログラム 概要

[要点]

1980 年に開始。

対象国:

現在(5か国): アンゴラ、チャド、エチオピア、マリ、南スーダン

感染停止 及び／又は 認定前(2か国): スーダン、*コンゴ民主共和国(DRC)

ギニア虫症撲滅認定(16か国): ベナン、ブルキナファソ、カメルーン、中央アフリカ共和国、コートジボワール、ガーナ、*インド、ケニア、モーリタニア、ニジェール、ナイジェリア、パキスタン、セネガル、トーゴ、ウガンダ、イエメン

主要団体: カーターセンター

主な協力機関: 中央政府、地域コミュニティ、並びに WHO、米 CDC、ユニセフを含む多くの地方、国内及び国際的なパートナー

[年表]

1980	天然痘の撲滅が認定され、史上初の撲滅疾患となる。米国疾病予防管理センター(CDC)は、ドナルドホプキンス博士の指導の下、2 番目の撲滅ヒト疾患として、ギニア虫症の撲滅を模索し始める。
1986	元米大統領のジミー・カーターは、顧みられない病気であるギニア虫症の撲滅のチャンピオンとなる。 カーターセンターは、ホプキンス博士の指導の下、国際キャンペーンの音頭を取り、パキスタンで活動を開始する(1996 年に撲滅認定)。
1988	ナイジェリア(2013 年に撲滅認定)、ガーナ(2015 年に撲滅認定)、ケニア(2018 年に撲滅認定)で活動開始。
1989	カメルーン(2013 年に撲滅認定)で活動開始。
1991	エチオピア(現在も感染国)で活動開始。
1992	ブルキナファソ(2011 年に撲滅認定)、セネガル(2004 年に撲滅認定)で活動開始。
1993	ベナン(2009 年に撲滅認定)、チャド(現在も感染国)で活動開始。
1995	コートジボワール(2013 年に撲滅認定)、モーリタニア(2009 年に撲滅認定)、イエメン(2004 年に撲滅認定)、スーダン(2002 年に感染停止; 認定申請準備中*)で活動開始。
1996	ウガンダ(2009 年に撲滅認定)で活動開始。
2000	中央アフリカ共和国(2007 年に撲滅認定)で活動開始。
2002	トーゴ(2011 年に撲滅認定)で活動開始。
2003	マリ(現在も感染国)で活動開始。
2011	南スーダン(現在も感染国)で活動開始。(南スーダンは世界で最も

	新しく誕生した国となり、プログラム活動は継続。)
2018	アンゴラ(現在も感染国)で感染が報告される。
2022*	コンゴ民主共和国が撲滅認定申請書を提出。(結果待ち)

- * WHO は、あらゆる疾患の撲滅又は根絶を公式に認定できる唯一の機関である。
- *現在までに、世界保健機関(WHO)は、ギニア虫の存在しない 199 か国を認定している。コンゴ民主共和国を含め、認定されていないのは 7 か国のみである。コンゴ民主共和国では、1958 年以降、症例は報告されておらず、同国は撲滅認定の申請書を提出している。また、スーダンは 2022 年に認定申請書を提出する予定である。
- *感染が止まった場合、カーターセンターは監視を継続的に支援するとともに、感染国に対し、ギニア虫症撲滅認定のための独立した国際委員会による公式評価及び WHO による認定の準備を支援する。米 CDC は技術支援を提供し、虫の標本が本当にギニア虫であることを確認する。
- *キャンペーンの初期、1983年にインドは独自のプログラムを開始し、1996年に最後の現地由来の症例を報告した。インドは2000年に撲滅認定された。

[主な受賞と栄誉]

ギニア虫症撲滅プログラム関係者の主な受賞歴

2006	カーターセンター・ギニア虫症撲滅プログラム -ビル&メリンダ・ゲイツ財団から「ゲイツ国際保健賞」を受賞。
2017	「保健チャンピオン功労(REACH) 賞」を以下のとおり受賞。(アブダビ首長国シェイク・ムハンマド・ビン・ザーイド皇太子により授与。) -ジミー・カーター元米大統領:「生涯功労賞」 -ナビル・アジズ・アワド・アラ博士(スーダン):「勇気賞」 -アマドゥ・キアーナ・サラウ博士(ナイジェリア):「ラスト・マイル賞」 -レジーナ・ロトウバイ・ロマレ・ロチランゴル博士(南スーダン):「陰の英雄賞」 -ダニエル・マディット・クオール・マドゥット(南スーダン):「陰の英雄賞」
2002	ジミー・カーター元米大統領 カーターセンター創設者 -「ノーベル平和賞」を受賞。
2016	アダム・ワイス(公衆衛生学修士) ギニア虫症撲滅プログラム責任者 -エモリー大学ロリンズ公衆衛生大学院から「チャールズ・C・シェパード賞」を受賞。
2015	クレイグ・ウィザーズ(経営学修士、医療経営学修士) カーターセンター副会長(海外事業担当)。ギニア虫症との闘いに長年従事。 -バイタル・スマート株式会社から、インフルエンサーとして、「アルバート・バンドウラ賞」を受賞。
2017	-南スーダン政府から、ギニア虫症撲滅への貢献により、「感謝表彰」を受賞。

1983	ドナルド・R・ホプキンス博士 ギニア虫症撲滅特別顧問 -「CDC功労メダル」を受賞。(米公衆衛生局の特別サービス・メダル。)
1998	-「マリ国家騎士勲章」を受章。
2004	-ニジェール政府から「公衆衛生名誉メダル(金賞)」を受章。
2005	-テュレーン大学 から「公衆衛生チャンピオン」を受賞。
2007	-メルク株式会社から「メクティザン賞」を受賞。
2012	-「ジェームズ・F&サラ・T・フライズ財団保健改善賞」を受賞。 -州及び海外領土疫学者評議会(CSTE) から、応用疫学への卓越した貢献により、「ポンプハンドル賞」を受賞。 -ハーバード大学、イエール大学、モアハウス大学、エモリー大学から「名誉博士号」を授与。
1990 2017	アーネスト・ルイズ・ティベン博士 元ギニア虫症撲滅プログラム責任者(1998-2008) -米疾病予防管理センター(CDC)から「功労メダル」を受賞。 -南スーダン政府から、ギニア虫症撲滅への貢献により、「感謝表彰」を受賞。
2017	ケリー・キャラハン カーターセンターのトラコーマ管理プログラム責任者。ギニア虫症との闘いにも長年従事。 -米平和部隊(U.S Peace Corps) から「卓越した人道活動に対するサージェント・シュリバー賞」を受賞。
2012	エマニュエル・S・ミリ博士 カーターセンター保健プログラムのナイジェリア責任者 -ナイジェリア連邦共和国政府から「ナイジェリア連邦共和国勲章・オフィサー」を受賞。
2011	アブドゥルラーマン・A・アル＝アワディ博士(クウェート) -クウェートへの30年間の奉仕に対し、クウェート首長のシェイク・サバーハ・アル＝アハマド・アル・ジャービル・アル・サバーハ殿下により賞を授与。

[主な論文]

査読出版とオペレーショナル・リサーチ

カーターセンターは、ギニア虫症撲滅プログラムを皮切りに、オペレーショナル・リサーチの先駆者としての評判を築き上げてきた。多くの場合、査読済みの文献に調査結果を公開することで、事業活動の実施と評価の両方を行っている。これらの数百の学術出版物は、成功を示し、課題を説明し、ローカル及びグローバルなベスト・プラクティスに貢献し、WHO のガイドラインに情報を提供している。

同様に、数百の獲得したメディア記事が配置され、数十のヒューマンインタレスト記事が

様々な形式で収集されて、ギニア虫症撲滅プログラムのゼロへの道のりを記録している。

以下が5つの例である。

1. Eberhard, Mark L., et al., “The Peculiar Epidemiology of Dracunculiasis in Chad.” *American Journal of Tropical Medicine and Hygiene*, vol. 90, no. 1, 2014, pp. 61-70.
2. Priest, Jeffrey W., et al., “Development of a Multiplex Bead Assay for the Detection of Canine IgG4 Antibody Response to Guinea Worm.” *American Journal of Tropical Medicine and Hygiene*, vol. 104, no. 1, 2021, pp. 303-312.
3. Ribado, Jessica V., et al., “Linked surveillance and genetic data uncovers programmatically relevant geographic scale of Guinea worm transmission in Chad.” *PLOS Neglected Tropical Diseases*, vol 15, no. 7
4. Wuilbercq, Emeline, “‘End is in sight’: tackling a rare disease in a global pandemic.” *Thomson Reuters Foundation News*. 29 April 2021.
5. “Guinea Worm Warrior’s Weapon is a Song.” *The Carter Center*. 24 August 2021.

(了)